

スーパーマーケット販売統計調査資料

3月実績 速報版(パネル 270)

2月実績 確報版(パネル 270)

(2020年4月21日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
	一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類	
	非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具	
その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)		

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2020年4月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2020年3月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	96,386,577	100.0%	108.8%	107.4%
食品合計	87,313,714	90.6%	109.9%	108.4%
生鮮3部門合計	33,156,687	34.4%	109.1%	107.5%
青果	13,244,351	13.7%	107.8%	106.3%
水産	8,390,906	8.7%	106.8%	105.0%
畜産	11,521,430	12.0%	112.3%	110.8%
惣菜	9,032,102	9.4%	100.6%	99.5%
日配	18,707,049	19.4%	111.6%	109.6%
一般食品	26,417,876	27.4%	113.4%	112.0%
非食品	6,346,416	6.6%	102.6%	99.7%
その他	2,726,497	2.8%	94.4%	95.4%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,201,591	43	105.9%	104.1%
関東地方	36,910,155	73	111.6%	110.5%
中部地方	11,832,246	53	108.5%	106.6%
近畿地方	19,923,918	44	108.7%	107.3%
中国・四国地方	9,513,960	34	106.1%	105.4%
九州・沖縄地方	5,004,707	23	103.3%	101.3%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	651,818	45	101.6%	103.7%
4~10店舗	4,627,663	79	105.8%	106.5%
11~25店舗	10,710,123	59	109.0%	107.5%
26~50店舗	16,695,231	43	107.6%	106.3%
51店舗以上	63,701,742	44	109.3%	107.8%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	94,089,598	
総店舗数 (店舗)	8,018	店舗平均月商 (万円)	12,021	
総売場面積 (㎡)	13,369,790	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.2	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2020年4月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2020年2月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	87,373,396	100.0%	106.8%	105.5%
食品合計	79,344,181	90.8%	106.8%	105.4%
生鮮3部門合計	29,745,060	34.0%	105.3%	103.9%
青果	11,820,774	13.5%	102.4%	101.2%
水産	7,518,685	8.6%	105.6%	104.1%
畜産	10,405,602	11.9%	108.6%	107.0%
惣菜	9,092,905	10.4%	107.3%	105.8%
日配	17,165,427	19.6%	107.9%	106.1%
一般食品	23,340,788	26.7%	107.7%	106.6%
非食品	5,796,690	6.6%	111.4%	109.0%
その他	2,232,572	2.6%	100.3%	100.5%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,987,226	43	107.5%	106.1%
関東地方	32,820,890	73	108.6%	107.6%
中部地方	10,716,946	53	106.5%	104.5%
近畿地方	18,631,751	44	103.5%	102.3%
中国・四国地方	8,658,525	34	107.3%	106.3%
九州・沖縄地方	4,558,058	23	105.5%	103.4%

保有店舗数別集計

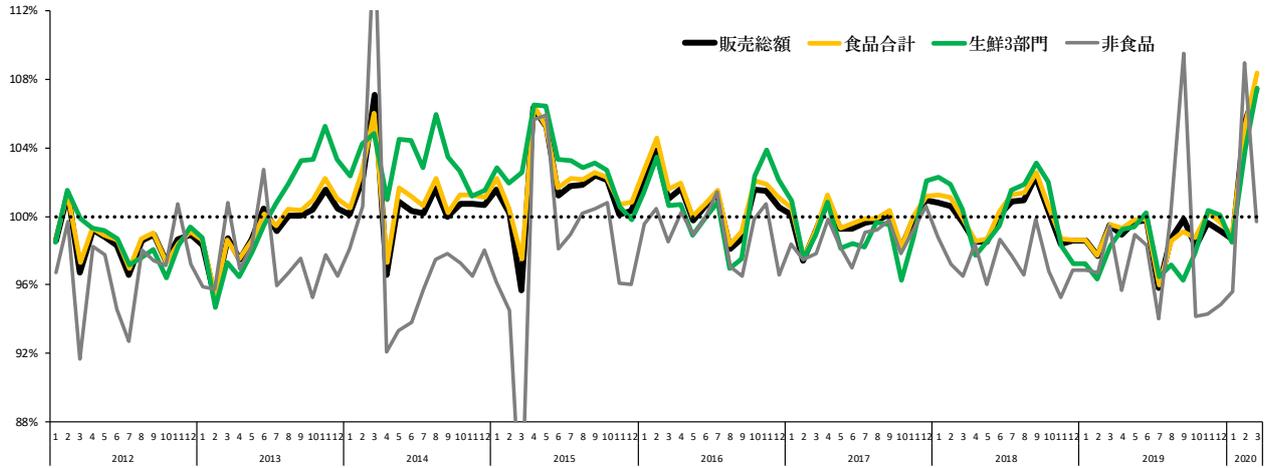
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	592,973	45	102.2%	103.6%
4~10店舗	4,131,472	79	103.4%	104.7%
11~25店舗	9,854,361	59	107.0%	105.2%
26~50店舗	15,074,393	43	106.8%	105.6%
51店舗以上	57,720,196	44	107.0%	105.5%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	84,891,588	
総店舗数 (店舗)	8,018	店舗平均月商 (万円)	10,897	
総売場面積 (㎡)	13,373,114	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.5	

※売上高は税抜金額

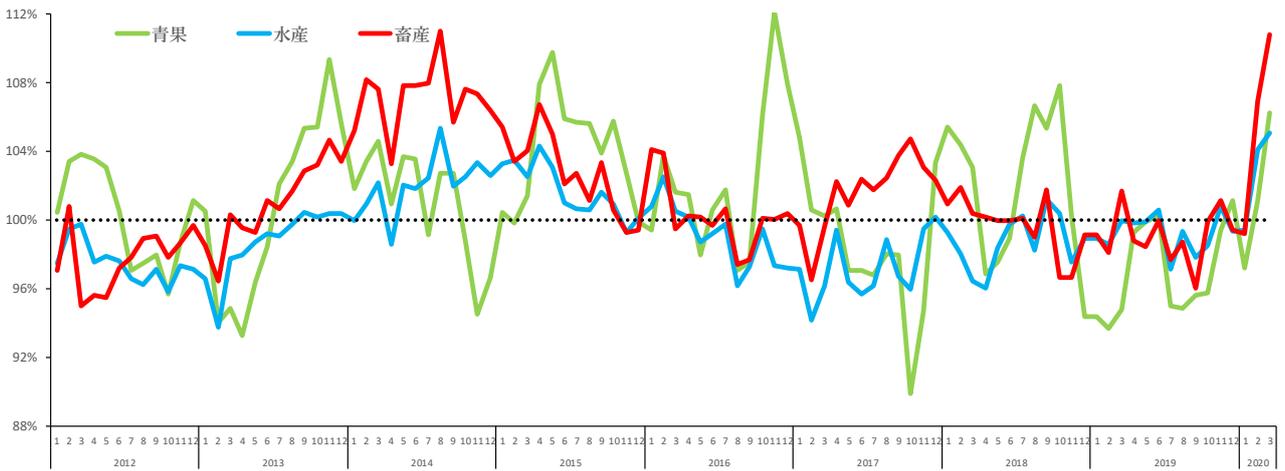
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2012年1月～

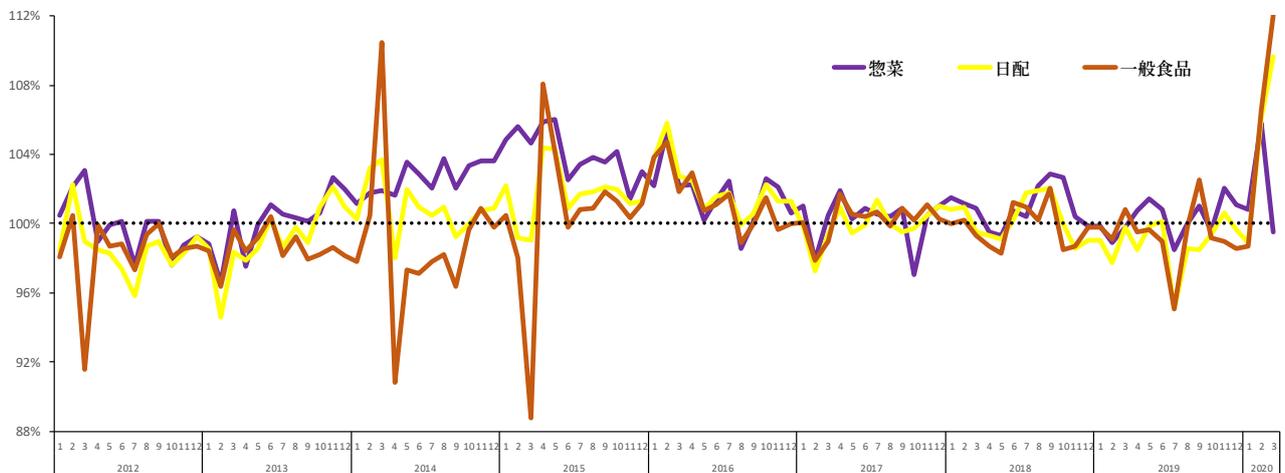
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2020年3月実績は速報値

2020年3月エリア別気候状況

気温の特徴：北・東・西日本では、かなり高かった

上旬：北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高かった。

中旬：北日本でかなり高く、東・西日本で高かった。一方、沖縄・奄美で低かった。

下旬：全国的にかなり高かった。

2019年3月との比較：下旬、北日本でかなり高い気温となった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2020年3月			2019年3月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	3.4	2.0	2.2	3.4	2.2	-0.8	0.0	-0.2	3.0
太平洋側	2.9	2.2	2.2	3.3	2.0	-0.5	-0.4	0.2	2.7
東日本 日本海側	3.1	1.7	1.6	3.1	0.7	1.1	0.0	1.0	0.5
太平洋側	3.1	1.7	1.6	2.4	1.1	1.3	0.7	0.6	0.3
西日本 日本海側	2.1	1.0	2.5	2.1	0.4	1.5	0.0	0.6	1.0
太平洋側	2.3	0.7	2.1	2.0	0.3	1.2	0.3	0.4	0.9
沖縄・奄美	1.8	-0.9	1.9	2.1	0.1	0.9	-0.3	-1.0	1.0

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

日照時間の特徴：北・西日本と東日本日本海側では、多かった

上旬：北日本太平洋側でかなり少なく、北日本日本海側と東・西日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。一方、東日本日本海側で多かった。

中旬：東日本太平洋側と西日本でかなり多く、北日本と東日本日本海側、沖縄・奄美で多かった。

下旬：北日本でかなり多く、東日本日本海側と沖縄・奄美では多かった。

2019年3月との比較：上旬北日本でかなり少なく、下旬は北日本でやや多い日照時間となった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2020年3月			2019年3月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	81	120	149	157	102	74	-76	18	75
太平洋側	60	116	130	121	103	94	-61	13	36
東日本 日本海側	126	112	121	143	110	86	-17	2	35
太平洋側	83	137	102	87	127	104	-4	10	-2
西日本 日本海側	91	153	107	93	132	116	-2	21	-9
太平洋側	91	143	99	89	138	106	2	5	-7
沖縄・奄美	72	128	121	75	168	115	-3	-40	6

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

降水量の特徴：北日本太平洋側でかなり多かった

上旬：北・東・西日本太平洋側でかなり多く、北・西日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。

中旬：北日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。一方、西日本でかなり少なく、北・東日本太平洋側で少なかった。

下旬：東日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。一方、北日本太平洋側でかなり少なかった。

2019年3月との比較：上旬は北日本でかなり多く、下旬は北日本で少なく、東日本や西日本で多くなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2020年3月			2019年3月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	123	183	77	35	86	137	88	97	-60
太平洋側	393	62	32	34	145	79	359	-83	-47
東日本 日本海側	88	127	101	66	122	93	22	5	8
太平洋側	191	64	130	185	86	23	6	-22	107
西日本 日本海側	171	41	126	212	71	44	-41	-30	82
太平洋側	207	26	89	211	63	43	-4	-37	46
沖縄・奄美	188	115	108	291	34	67	-103	81	41

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

気象庁報道資料「3月の気候」を参考に事務局作成
平年値は過去30年 (1981年~2010年) の平均

スーパーマーケット景気動向調査

2020年4月調査結果（3月実績）
（2020年4月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

4月調査（3月実績）結果概況

現状判断は改善継続も、見通し判断は小幅に悪化

3月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は、前月から+2.9の50.8、見通し判断は前月から-2.1の36.9となり、現状判断DIは改善、見通し判断は小幅に悪化となった。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に上昇し、二桁プラス値となった。小中高一斉休校や在宅勤務の増加などで内食需要が高まり、客単価や来客数などすべてのDIがプラスとなった。

カテゴリ動向調査では、行楽や行事の中止、バラ売り販売自粛の動きがあった惣菜カテゴリDIはマイナスとなったが、それ以外のカテゴリDIは二桁のプラス値となった。なかでも買い置きが可能なカテゴリ、生鮮品では畜産、そして日配や一般食品カテゴリの数値が大きくなった。

景況感調査は、景気判断DIや消費者購買意欲DIの現状判断が大きく改善し、特に消費者購買意欲DIは67.2まで上昇した。その一方で、店舗周辺地域景気判断DIは大幅な悪化をみせるなど、景気の先行きには不安が拡大している。（長期傾向についてはp11参照）

新型コロナウイルスの影響が続くなか、食のライフラインとして、在宅率の高まりによる内食需要を支える存在として位置付けられることで、営業継続に向けた努力に対しても、社会からの理解が広がっている。影響が長期化することも予想されるなか、地域インフラとして、苦境に立たされる外食店などと消費者との接点としての要望も高まると予想される。需要増による人手不足と従業員の疲弊、感染予防対策強化が求められる中での対応は容易ではないが、今後も地域を支える取り組みを期待したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：50.8 (+2.9) 前月：47.9	消費者購買意欲DI 当月：67.2 (+11.3) 前月：55.9	周辺地域 競合状況DI 当月：44.6 (+1.1) 前月：43.5	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：38.9 (-5.3) 前月：44.2
--	--	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：36.9 (-2.1) 前月：39.0	消費者購買意欲DI 当月：52.7 (+7.8) 前月：44.9	周辺地域 競合状況DI 当月：43.0 (+1.4) 前月：41.6	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：32.4 (-7.0) 前月：39.4
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：18.5 (+3.1) 前月：15.4	客単価DI 当月：18.9 (+13.8) 前月：5.1	来客数DI 当月：6.4 (-1.6) 前月：8.0	
収益DI 当月：16.7 (+4.4) 前月：12.3	販売価格DI 当月：5.4 (+3.3) 前月：2.1	生鮮品仕入原価DI 当月：4.9 (+2.0) 前月：2.9	食品仕入原価DI 当月：6.5 (+1.2) 前月：5.3

カテゴリ動向

青果DI 当月：13.4 (+15.3) 前月：-1.9	水産DI 当月：10.5 (+0.1) 前月：10.4	畜産DI 当月：23.3 (+4.3) 前月：19.0	
惣菜DI 当月：-8.7 (-21.2) 前月：12.5	日配DI 当月：22.0 (+5.0) 前月：17.0	一般食品DI 当月：28.5 (+11.2) 前月：17.3	非食品DI 当月：23.8 (-2.4) 前月：26.2

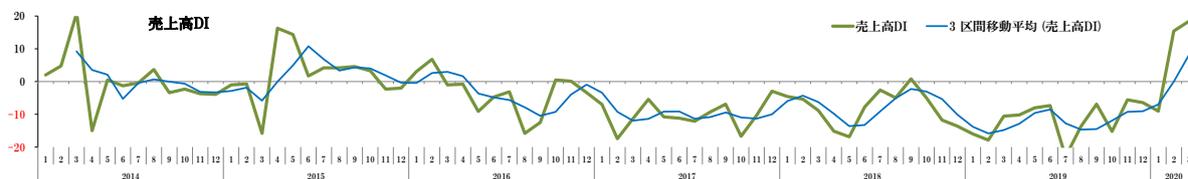
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

当月さらに上昇し、2ヵ月連続で大幅なプラス値を記録

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	2.8	13.5	20.8	44.9	18.0	15.4
売上高 (当月)	6.4	10.8	12.7	42.7	27.4	18.5



2. 収益DI

当月さらに上昇し、2ヵ月連続で大幅なプラス値を記録

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	4.6	12.6	27.4	40.0	15.4	12.3
収益 (当月)	4.5	13.0	13.0	50.0	19.5	16.7



3. 販売価格DI

当月やや上昇し、プラス幅を拡大

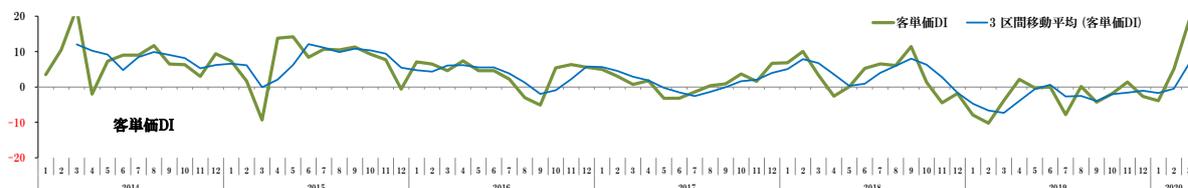
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.6	10.7	68.9	19.2	0.6	2.1
販売価格 (当月)	0.6	6.4	67.5	21.7	3.8	5.4



4. 客単価DI

当月大幅に上昇し、二桁水準を記録

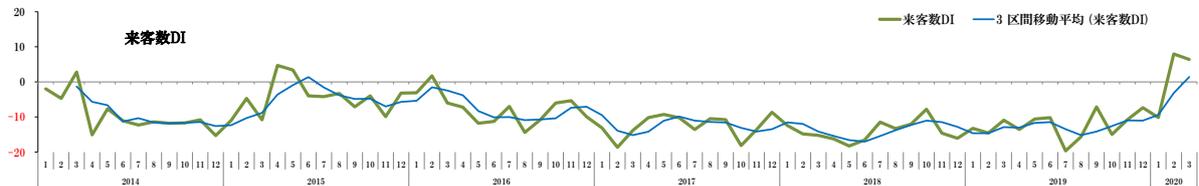
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	19.2	42.9	33.9	3.4	5.1
客単価 (当月)	1.3	10.9	18.6	49.4	19.9	18.9



5. 来客数 DI

当月わずかに減少も、2ヵ月連続のプラス

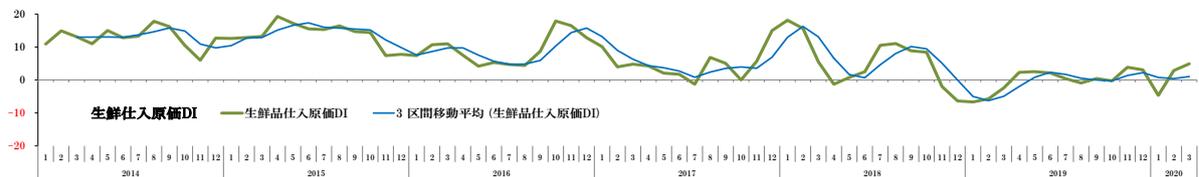
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	5.1	17.6	27.3	40.3	9.7	8.0
来客数 (当月)	7.7	18.6	23.7	40.4	9.6	6.4



6. 生鮮仕入原価 DI

当月小幅に上昇し、プラス水準を維持

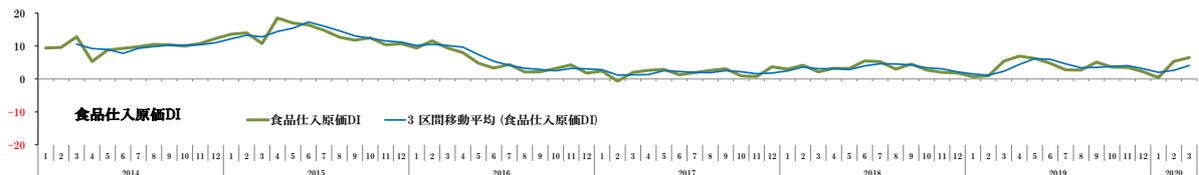
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.1	12.6	63.8	18.4	4.0	2.9
生鮮仕入原価 (当月)	2.0	13.1	52.3	28.8	3.9	4.9



7. 食品仕入原価 DI

当月小幅に上昇し、プラス水準を維持

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.3	4.0	68.8	19.7	5.2	5.3
食品仕入原価 (当月)	1.9	4.5	66.2	20.1	7.1	6.5

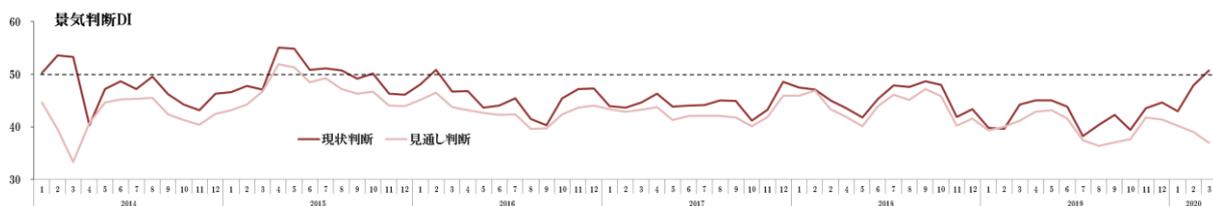


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は改善も、見通し判断は小幅に悪化

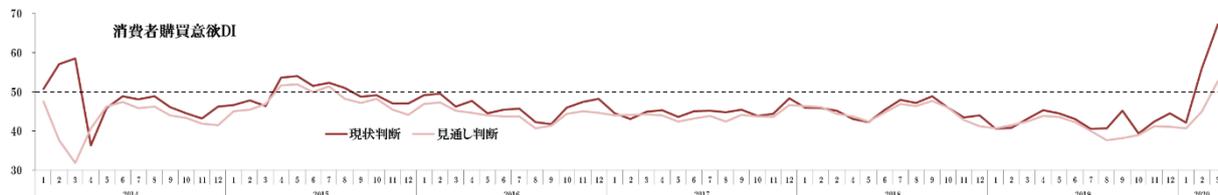
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	5.1	25.3	44.9	22.5	2.2	47.9
【現状】景気判断 (当月)	9.5	18.4	37.3	29.1	5.7	50.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	10.1	37.1	39.9	12.4	0.6	39.0
【見通し】景気判断 (当月)	18.5	32.5	35.0	10.8	3.2	36.9



2. 消費者購買意欲 DI

現状は大幅に改善し過去最高水準を更新、見通し判断も大幅に改善

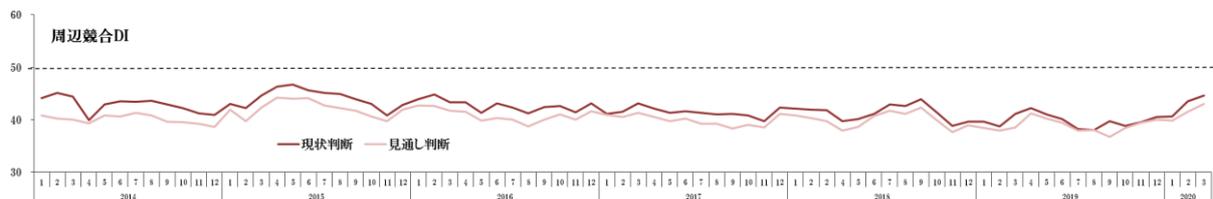
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.1	18.5	42.1	32.0	6.2	55.9
【現状】購買意欲 (当月)	4.4	7.6	21.5	47.5	19.0	67.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	4.5	30.3	46.6	18.0	0.6	44.9
【見通し】購買意欲 (当月)	5.7	20.3	40.5	24.7	8.9	52.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しともに小幅に改善

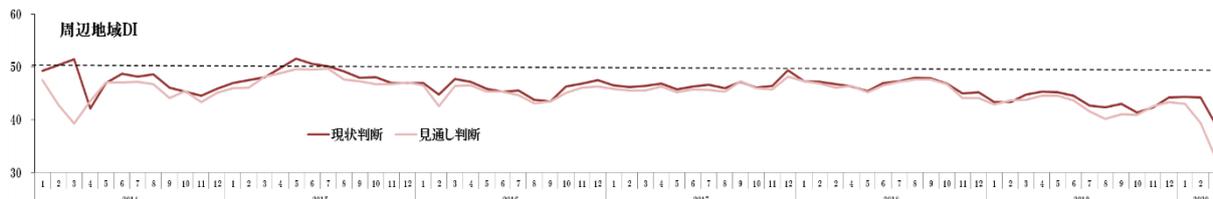
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	5.1	21.3	68.5	4.5	0.6	43.5
【現状】競合状況 (当月)	5.1	16.5	74.7	2.5	1.3	44.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	7.3	23.0	65.7	3.9	0.0	41.6
【見通し】競合状況 (当月)	6.4	20.4	68.8	3.8	0.6	43.0



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に悪化

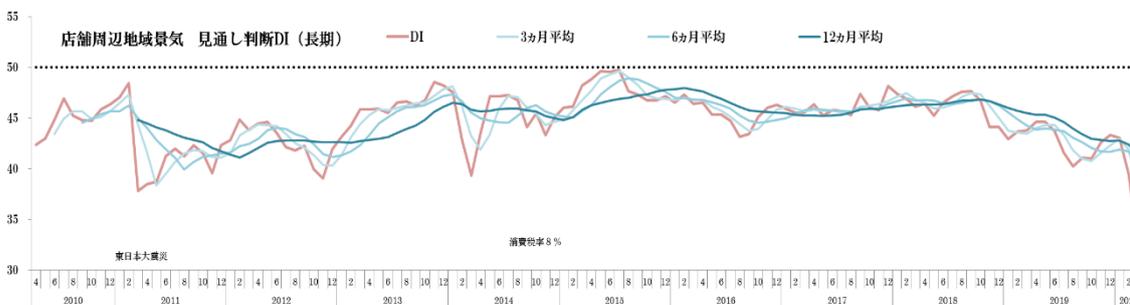
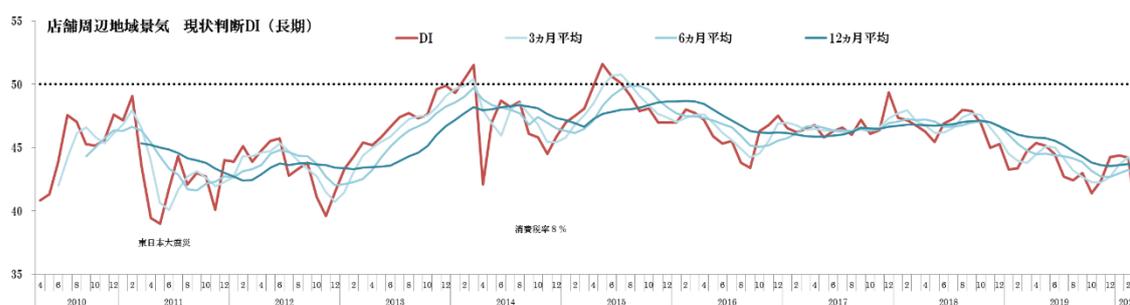
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	3.4	23.7	65.5	7.3	0.0	44.2
【現状】地域景気 (当月)	11.4	33.5	43.7	10.8	0.6	38.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	9.0	30.5	54.2	6.2	0.0	39.4
【見通し】地域景気 (当月)	22.8	30.4	41.8	4.4	0.6	32.4



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

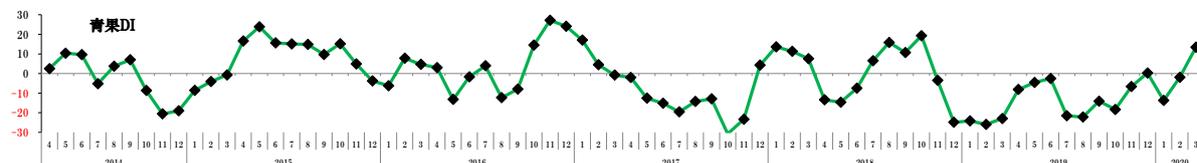
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月から新型コロナウイルスの影響により、大幅に低下した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：13.4（好調）

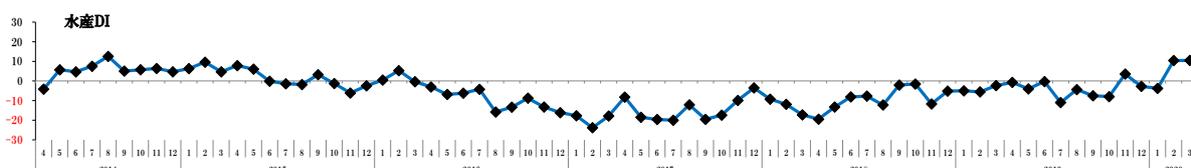
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	5.3	31.2	32.4	28.2	2.9	-1.9
青果（当月）	6.0	10.1	26.2	39.6	18.1	13.4



中旬まで青果相場は安値で推移していたが、下旬から上昇した地域が多かった。新型コロナウイルスの影響により内食需要が高まっており売上を底上げした。気温が高く、サラダ関連野菜は動きがよかった。日持ちするジャガイモや玉ねぎに、カレー用のニンジン、炒め物用食材としてピーマンなどの販売数量が増加。免疫力アップとして報道のあった長芋に特需が発生した店舗もみられた。果物類では、輸入果物のバナナやオレンジなどが好調、国産果物ではイチゴやりんごが好調となった。

2. 水産DI：10.5（好調）

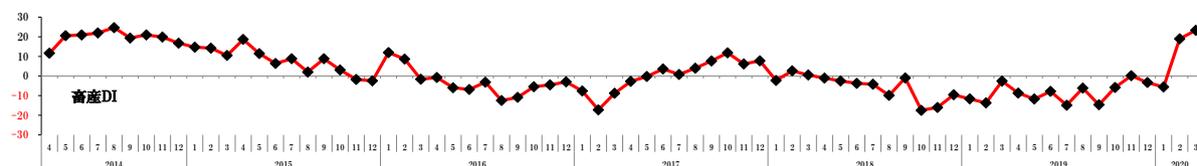
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	2.9	14.7	32.4	37.6	12.4	10.4
水産（当月）	5.3	14.7	26.7	39.3	14.0	10.5



新型コロナウイルスの影響により、丸魚販売を中止する店舗も。保存の利く冷凍魚や加工品が好調となった一方で、刺身などの生食用は伸び悩んだ。春商材である海藻類やアサリが好調とのコメントが多かった。ひな祭り関連のちらしや手巻き寿司用商材は好調だった。ほたるいか大豊漁で値ごろとなり好調とのコメントがみられたが、花見や行楽自粛の影響で、つまみ用の珍味類は不振となった。

3. 畜産DI：23.3（かなり好調）

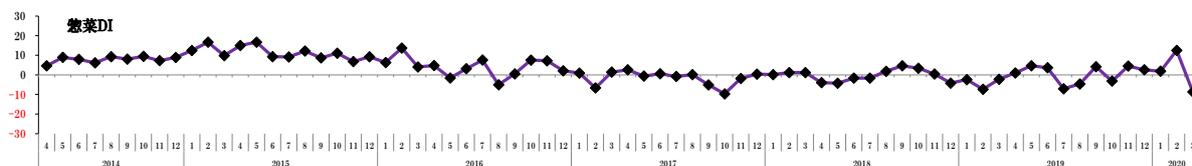
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	0.6	9.9	21.6	48.5	19.3	19.0
畜産（当月）	1.3	8.6	21.2	33.1	35.8	23.3



新型コロナウイルスの影響による内食需要の高まりを受け、牛・豚・鶏いずれも好調であり、なかでも冷凍保存目的の購入向け大容量パックや、簡便調理用の味付け商材が好調となった。相場が低下傾向にあることで、国産の動きがよいとのコメントもみられた。ハムやソーセージなどにも、一部にはまとめ買いの動きがみられた。高い気温により、焼肉用商材は好調となったが、すき焼き、鍋用の食材は動きが悪かった。

4. 惣菜DI：-8.7（やや不調）

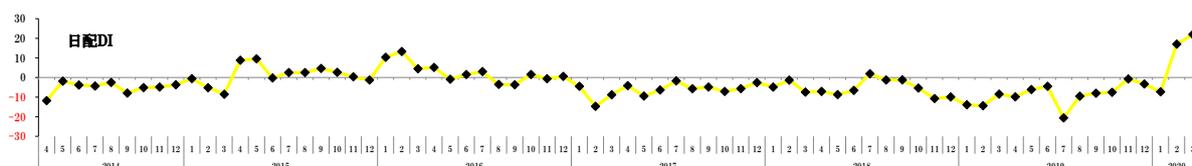
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	2.9	13.5	27.1	43.5	12.9	12.5
惣菜（当月）	10.7	34.7	36.0	16.0	2.7	-8.7



一斉休校による昼食ニーズの増加による需要増加はあったものの、花見や行楽の自粛、卒業式や謝恩会、送別会など会合の中止によるオードブルや弁当需要の激減、天ぷらや揚げ物などのバラ売り販売を中止しパック販売を行うことで製造量も増やせず、在宅勤務の増加により仕事帰りの惣菜購入ニーズが減少した店舗もみられ、全体としてはやや不調となった。人手不足に苦慮した店舗も多くみられた。

5. 日配DI：22.0（かなり好調）

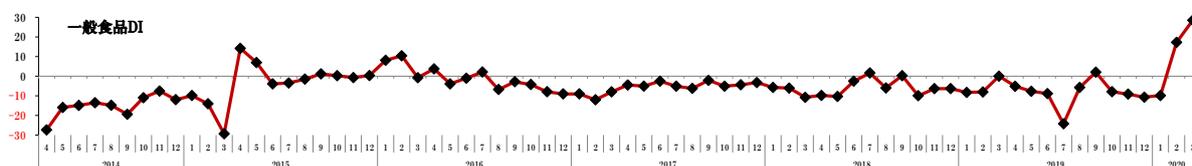
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	2.4	7.7	23.7	52.1	14.2	17.0
日配（当月）	1.4	7.4	18.9	46.6	25.7	22.0



新型コロナウイルスの影響による内食需要や学校給食の代替需要として、牛乳や卵、麺類やパン類、冷凍食品が好調で、買いだめ行動もみられた。納豆やヨーグルト、キムチなどの発酵食品、乳酸菌関連商品の売上が好調となっており、一部では欠品も発生した。高い気温により飲料類の動きもよかった。

6. 一般食品：28.5（かなり好調）

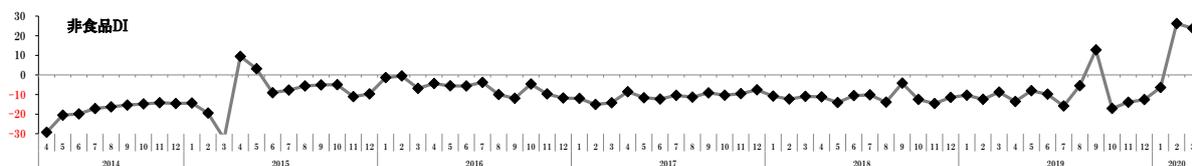
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	1.8	10.5	24.0	44.4	19.3	17.3
一般食品（当月）	0.7	7.3	11.3	38.7	42.0	28.5



新型コロナウイルスの影響による内食需要増が売上を底上げし、ほとんどの食品で売上が好調。特に備蓄向き、簡便調理用の食品が好調となった。米類、パスタ・パスタソース、小麦粉・ホットケーキミックスなど粉製品、袋ラーメンの5食パック、カップ麺、シリアル、カレー・レトルトなどが挙げられる。飲料では2リットルPETボトルの動きがよかった。一部の食品は品薄、店頭欠品もみられた。酒類・珍味も、宴会の自粛や在宅勤務などによる「家飲み」需要が高まり好調となった。

7. 非食品 DI：23.8（かなり好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	2.4	5.5	15.2	38.8	38.2	26.2
非食品（当月）	4.1	6.1	17.7	34.7	37.4	23.8



新型コロナウイルスの影響により、マスクを中心にハンドソープ、除菌関連の衛生用品が品薄となっており、点数制限を実施。また、ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品に対しても買いだめが発生、店頭在庫の回復に時間を要し、機会ロスも発生した。従業員が店頭や電話での入荷問い合わせ対応、開店前の行列等に苦慮したという声も目立った。

カテゴリ別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2020年4月調査（3月実績）キーワードTOP3

1. 新型コロナウイルスによる需要の高まり
2. 小中高一斉休校による影響
3. イベント・行楽中止の影響

（参考）2019年4月調査（3月実績）キーワードTOP3

1. 日曜日が一日多い
2. 青果相場安
3. 消費の二極化

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

3月実績速報版 158 社
 2月実績確報版 178 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp